



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2008.11

No. 295

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



奥日光・千手ヶ浜へ行こう

オオワシ、オジロワシたちも待ってます！

入山 博（春日部市）

1. 千手ヶ浜とは

千手ヶ浜は中禅寺湖の西側にあり、晩秋のこの時期にはほとんど人がいない静かな浜です。6月から7月にかけて咲くクリンソウが有名で多くの観光客で賑わいます。

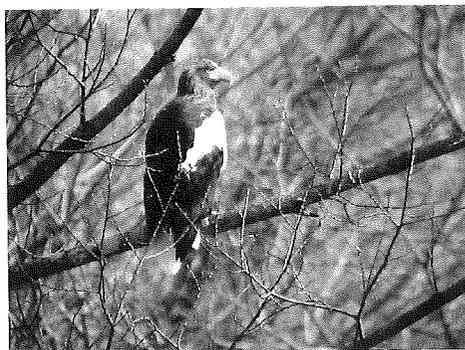
千手ヶ浜には低公害バスで行く事が出来ます。その低公害バスは平成5年から日本で初めて導入したバスで、今では奥日光の一つの顔になっています。千手ヶ浜に行く日光市道1002号線は、自然保護を目的に現在は、マイカーの乗り入れを禁止しています。

2. コース案内（4ページ参照）

東武日光駅より日光湯元行きのバスに乗り約1時間、「赤沼」で下車。国道120号線を渡り赤沼自然情報センターへ。ここで千手が浜・戦場ヶ原の野鳥や植物等の情報を入手。その際クマの情報も忘れずに。

赤沼自然情報センターの前が低公害バス発着場（左下写真）で、ここから低公害バスに乗ります。席は進行方向の右側がオススメ。終点の「千手ヶ浜」までは約30分。奥日光の自然についてのアナウンスを聞きながらのバスの旅です。途中の小田代ヶ原は必見で、あの有名な白樺が見えますよ。また、「西湖入口」付近の外山沢川沿いを良く見るとオジロワシが居るかもしれません。

「千手ヶ浜」のバス停に着いたら、周りの山の稜線の枯れ木を注意深くよく見よう。もしかしたらオオワシが羽を休めているかもしれません。あと上空も忘れずに。



千手ヶ浜にトイレはここにしかありません。出発する前に最終バスの時間を必ず確認しよう。さあ、支度が出来たら出発、出発。

千手ヶ浜を回るコースは、約1.5kmの平坦なコースで、鳥を見ながらゆっくり歩いても2時間もあれば十分に回れると思います。千手ヶ浜から見る男体山は雄大で、ここで撮影された写真（右下写真）は、よくポスター等に使われています。

バス停を出て右折をして木の橋を渡ろう。砂利道をそのまま進むと、中禅寺湖と西湖に行く十字路に出ます。この辺は大きな木が多く、カラ類やキバシリなどが良く見られます。

そのまま進むと柳沢川を渡るコンクリートの橋に出ます。ここは、千手ヶ浜のポイントの1つで、川の両岸にある枯れ木にオオワシがよく留まっています。ここで、探鳥会の時にオオワシに会ったことがあります。橋に出る時は、静かに、ゆっくり、慎重に！「あっ、そこに居たの」と後悔しないように。

また、ここではカワガラスが良く見られます。足元の近くをミソサザイがちょろちょろ



しているかもしれません。

コンクリートの橋を渡ると目の前に中禅寺湖漁業組合の建物が見えます。この付近には、小さな池がありコガモが隠れているかも。また、大きな木を見上げると立派なヤドリギがあります。中禅寺湖漁業組合の敷地は、立入禁止なので絶対に立入らないで下さい。

中禅寺湖漁業組合の敷地を左折しよう。そのまま直進すると中禅寺湖が見えます。湖面を見ると**カンムリカイツブリ**がいるかも。湖岸を見ると**オシドリ**等の**カモ類**が見られます。

左手にある10m位の吊り橋(乙次郎橋)を渡ろう。下の川を覗くとマスが泳いでいるときがあります。この付近は**キツツキ類**もよく見かけます。もしかしたら**オオアカゲラ**かもしれませんよ。

そのまま進むと千手ヶ浜の砂浜に出ます。この付近もポイントの1つで、近くの枯れ木に**オジロワシ**が留まっている事も。また、湖畔の流木に座って疲れをとりながら、上空に**オジロワシ**を待つのもいいものです。

外山沢橋を渡りボートハウスを左折します。外山沢川沿いを歩いていくと「千手ヶ浜」のバス停に着きます。バス停に着いたら帰りのバスの時間を確認しよう。

時間があればバス路線を赤沼の方へ歩いていこう。バス停から500m位行くと「草加市立奥日光自然の家入口」の看板があります。この近くでは、**アトリ**や**マヒワ**等の小鳥類が良く見られます。探鳥会で**オオマシコ**が見られたのもこの場所です。低公害バスはどこでも乗り降り自由なので、この辺まで鳥を探しながらバスを待つのも良いでしょう。低公害バスに乗ったら終点の「赤沼」まで乗ってもよし、途中「小田代ヶ原」辺りで降りて鳥を探しながら赤沼まで歩いてよし、時間と体力と相談してみてもいいでしょう。

3. 注意事項など

帰りの最終バスに乗り遅れないよう注意して下さい。バスの時刻表は停留場にあるので貰うようにしましょう。問い合わせ先は、日光自然博物館 TEL. 0288(55)0880 まで。

近年、戦場ヶ原周辺ではクマの目撃が多くなっています。赤沼自然情報センターで目撃情報を必ず入手してください。さらに目撃し

No.	出現鳥	回数	No.	出現鳥	回数
1	ハジロカイツブリ	2	30	オオアカゲラ	1
2	カンムリカイツブリ	2	31	コゲラ	6
3	カワウ	4	32	ハクセキレイ	1
4	アオサギ	3	33	セグロセキレイ	6
5	オシドリ	1	34	カワガラス	6
6	マガモ	6	35	ミンサザイ	6
7	カルガモ	1	36	ヒヨドリ	3
8	コガモ	2	37	ジョウビタキ	1
9	ヨシガモ	1	38	ツグミ	6
10	オカヨシガモ	5	39	キウイタダキ	4
11	ヒドリガモ	5	40	エナガ	4
12	ホシハジロ	6	41	コガラ	6
13	キンクロハジロ	6	42	ヒガラ	4
14	スズガモ	3	43	ヤマガラ	3
15	ホオジロガモ	1	44	シジュウカラ	6
16	ミコアイサ	1	45	ゴジュウカラ	6
17	カワアイサ	2	46	キバシリ	5
18	トビ	5	47	メジロ	1
19	オジロワシ	4	48	カシラダカ	4
20	オオワシ	3	49	アトリ	1
21	オオタカ	1	50	カワラヒワ	1
22	ハイタカ	1	51	マヒワ	2
23	ノスリ	2	52	オオマシコ	2
24	ハヤブサ	1	53	イカル	2
25	オオバン	5	54	シメ	3
26	イカルチドリ	1	55	カケス	5
27	アオシギ	2	56	ハンボソガラス	3
28	キジバト	2	57	ハシブトガラス	5
29	アカゲラ	6			

※湯滝・湯ノ湖付近で出現したものも含む

た時は、赤沼自然情報センターまで報告を。またセンターでは、奥日光の自然についてのパネル展示、自然についての本やガイドマップなどの販売も行っています。

防寒対策は充分に。千手ヶ浜は、11月でも雪が降ることがあります。中禅寺湖からの風は、かなり冷たいので真冬の装備で。

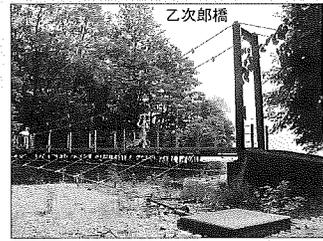
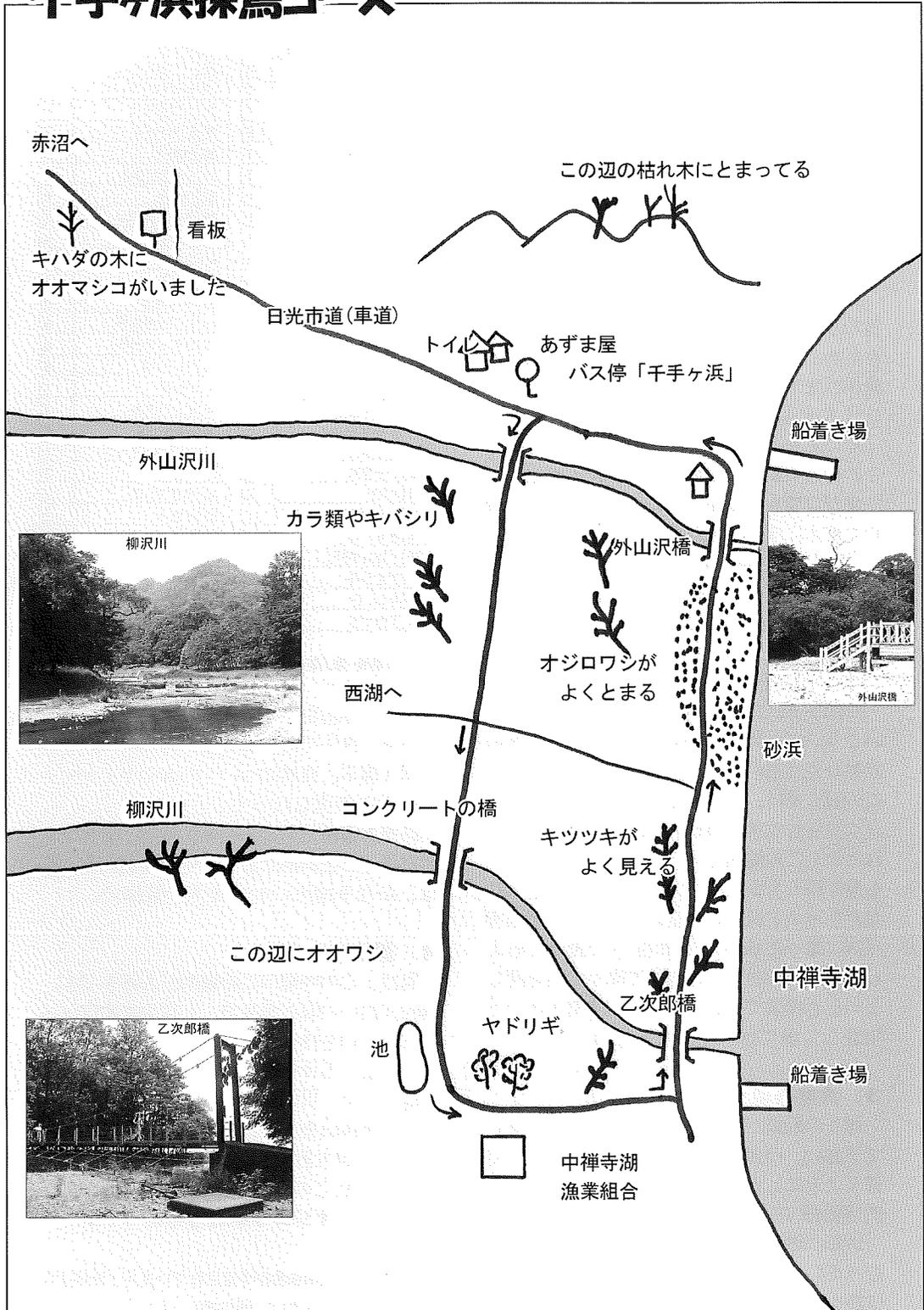
4. 最後に

私は、この時期のこの場所が大好きです。柳沢川沿いの陽だまりで、一日中**オオワシ**が出てくるのを待っているのが楽しいのです。ここで食べるカップヌードルは格別で一番の御馳走です。川の上流から**オオワシ**が飛んで来て、男体山をバックに飛ぶ姿を想像しながら待つのが大好きなんです。

ぜひ一度、この場所を訪れてみてください。**オオワシ**、**オジロワシ**たちも待っています。

(11月は奥日光探鳥会が予定されています。詳細は行事案内をご覧ください。編集部)

千手ヶ浜探鳥コース



再び、我がライフリストに想う

榎本秀和（鴻巣市）

◇「千葉県三番瀬にカラフトアオアシシギ」

その報せを受けたのは6月7日。世界的な希少種。特殊鳥類。しかも成鳥夏羽。

6月9日、三番瀬の浜辺に立つ。

と、沖の杭に張られたネットのロープ上に、カラフト君は止まっているのではないか。一目でそれとわかる、いともあっさりした出会いであった。

そのうち潮が引いて干潟が出てくると、カラフト君はオバシギやコオバシギ（もちろんみんな夏羽だ）と一緒に私のすぐそばまで飛んで来てくれて、私は彼（彼女？）の足の蹠（みずかき）までじっくり観察し尽くしていた。

かくしてカラフトアオアシシギは、私の日本国内ライフリストの節目を飾る450種目の野鳥となった。いつか来るとは思っていたが、とうとうその日が来たのだ。私が400種を達成したのは2001年1月。あれから7年半の年月が流れていた（表1、2）。

◇観察ノートのこと

さて私は、ライフリストに200種を数えたときから、ライファー（いわゆる「1種増えた」ときのその鳥。以前はニューバードとも言った）が増えるたびに必ず観察記録をつけている。まあライファーに限ったことではないが、探鳥したその晩、一杯やりながら観察ノートを書くときが、私にとってはまさに至福のひとつときなのだ。特にカモメ類の記録は丁寧に書きとめていて、私はこれを「カメモ」と称している（笑）。書きためたノートは現在24冊目。おかげさえば私の人生そのものである。

断っておくが、私は人が思うほど珍鳥追っかけ派ではない。1種1種、おりにふれ自然にたまっていく感じが好きなのだ。これからもそういうスタンスで鳥見を続けて行くことだろう。

◇年間観察記録

ところで、私はこの10年来、その年の1月から12月までの区切りで1年間の観察野鳥の記録もつけている。1年に200種見るとを一応の目標としているが、体調を崩して目標

に手が届かなかった年もある（表3）。

若い頃は、50歳までに400種見られれば、などと漠然と思っていたものだが、50歳を過ぎた今は、まずきっちり年間200種をクリアして行きたいと思う。憧れのあの鳥だって、例えば今回のカラフト君のようにいつか出会う日が来るだろう。鳥との出会いも「一期一会」の気持ちを大切にしながら、1種1種積み重ねて行きたい。そしてライフリストは、日本国内だけで500種の大台を目指す！私の人生は、きっとそういう人生なのだ。

表1 これまでの節目の野鳥

200種目	コウノトリ	1988. 2. 13	長野県佐久市千曲川河川敷
300種目	ウミガラス	1992. 3. 19	宮城県金華山南海域（船上）
400種目	ツメナガホオジロ	2001. 1. 13	北海道砂原町砂崎
450種目	カラフトアオアシシギ	2008. 6. 9	千葉県船橋市三番瀬

表2 日本国内ライフリスト
1985, 1, 27~2008, 10, 1

埼玉県内での観察あり	200種
他の都道府県のみ	253種
内訳	
関東地方のうち	129種
その他の地方	113種
舩倉島・飛島	11種
合計	453種

表3 日本国内年間観察種数

1998年	214種（うち埼玉県内	84種）
1999年	208種（	” 68種）
2000年	242種（	” 87種）
2001年	217種（	” 96種）
2002年	223種（	” 122種）
2003年	192種（	” 97種）
2004年	169種（	” 79種）
2005年	193種（	” 81種）
2006年	218種（	” 98種）
2007年	255種（	” 134種）
2008年	263種（	” 88種）

[10月1日現在]



野鳥情報

蓮田市城沼公園周辺 ◇8月25日、オオタカ若鳥1羽、屋敷林でハンティング。9月4日、ハチクマ2羽、カラスにモビングされて西に飛び去る。9月10日、サシバ2羽。屋敷林で休息。カラスに追われて西に飛び去る。9月19日、サシバ1羽、屋敷林で休息。9月24日、サシバ3羽、ハチクマ2羽、ハイタカ? 1羽のタカ柱。その後、南に流れる。時間を変えて、ハヤブサ1羽、屋敷林に入る。9月27日、サシバ1羽、屋敷林で休息。オナガに追われて飛び去る。9月30日、カケス1羽、屋敷林に飛び込んだ。この辺りで今季初認。サシバ1羽、カラスに追われて榎の木に逃げ込んだ。ヒヨドリ18羽、渡ってきた群れだ。コジュケイ、大きな声で鳴いていた。オナガ15羽+、屋敷林の間を飛びかっていた。その他シジュウカラ3羽、モズ1羽高鳴き(長嶋宏之)。

蓮田市黒浜 ◇9月13日、ヨタカの羽根を拾う。ヨタカの痕跡を確認したのは初めて。9月25日、モズ高鳴き。上沼にヒドリガモ3羽、今季初認。9月28日、ヒヨドリ25羽+、渡ってきた(長嶋宏之)。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇9月9日、ピクニックの森で、サンコウチョウ若鳥1羽。シジュウカラ群れの近くでひらひらしていたが、数分間で見えなくなった。9月13日、子供の森でサンコウチョウ2羽、ねらっているカメラマンが多いせいか、梢の高いところで時々見えるだけ。エゾビタキ、コサメビタキは、13日から15日まで連続観察(海老原美夫)。◇9月14日午前7時45分~9時30分、子供の森でエゾビタキ、コサメビタキ。その後、一回りしていると、遠くから「ホイホイホイ」のかすかな声。空耳かなと思いつつも、声のした方に行ってみると、カメラマンが2~3人。聞いてみるとサンコウチョウとのこと。梢の高い所で♂1羽、少し離れた所に若鳥1羽が見られた。警戒心が強く、数分で移動してしまつたが、いつのまにか周りにはカメラマンでいっぱい。

それにしても、ヤブ蚊が多くていっぱい刺されてしまった(藤原寛治)。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇9月15日、B区でノビタキ2羽、タシギ4羽、ツツドリ若鳥1羽、ショウドウツバメ数羽、ノスリ1羽(海老原美夫)。

川口市西新井宿 ◇9月20日、キビタキ♀1羽、コサメビタキ1羽、ミズキの木にいるところを確認。秋の渡りはピークを迎えようとしているが、いまだヤブ蚊が多い。じっくり観察したいが、早々に退散する(須崎聡)。

さいたま市岩槻区加倉5丁目 ◇9月23日、午前9時頃、上空を飛ぶサシバ1羽。近くの鉄塔の上にとまる。チョウゲンボウにモビングされ飛び去る(田村豊)。

吉見町北緯36.03度東経139.43度付近 ◇9月9日、田んぼでタカブシギ4羽、オジロトウネン1羽、コチドリ多数。9月16日、オジロトウネン2羽、ヒバリシギ1羽、タシギ1羽、コチドリ30羽+ (長嶋宏之)。

滑川町武蔵丘陵森林公園 ◇9月23日、サギ類170羽+。カケス2羽、今季初認。カワウ多数。オオタカ若鳥1羽が飛来してカワウの時に飛び込んだ。一斉にサギが長くクビを伸ばし、カワウが「グルルル」と鳴いて飛び上がった(長嶋宏之)。

桶川市日出谷西1丁目~上尾市藤波 上尾霊園 ◇9月28日、午前6時15分~7時、妻とのウォーキング途中。行けども行けどもモズが高い木のとっぺんで高鳴きをしていた。なんと10羽以上を確認出来た。こんなことは今まで初めてだ。昨日の北風に乗ってやって来たのでしょうか。アオサギが鳴きながら大きな羽を広げて飛んでいた(立岩恒久)。

八潮市中央4丁目 ◇10月2日、上空をカケス7羽。今季初認(山部直喜)。

表紙の写真

スズメ目ツグミ科

ジョウビタキ属ジョウビタキ

久保田忠資(狭山市)



行事案内



カシラダカ(蟹瀬武男)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。 持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月2日(日)

集合：午前8時、丸山公園北口駐車場。

交通：JR高崎線上尾駅西口1番バス乗り場から、西上尾車庫行き(畔吉経由)7:32 発で「畔吉」下車、徒歩約8分。

担当：大坂、浅見、阿久沢(キ)、阿久沢(廣)立岩、永野(安)、永野(京)、山野、長谷川

見どころ：木の葉が色づき、冬鳥の季節がやってきました。ジョウビタキやカワセミなどの小鳥たちが待っていることでしょう。荒川の河川敷で猛禽に出会えるといいですね。朝の公園はとても爽快です。お出かけください。



猛暑の7月13日(日)大麻生探鳥会は、参加者17名のうち、12名がリーダーでした(藤掛保司)。

志木市・柳瀬川探鳥会

期日：11月3日(月・祝)

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅西口、スーパー・サミット前の円形広場。

担当：持丸、佐久間、高草木、志村、神場、中村(治)、中村(祐)、荒木、山田(義)、杉原、藤澤、山口

見どころ：稲刈りも終わり、柳瀬川もすっかり秋景色。今年は雨が多く川の流れも変わっています。例年どおりカモ類、セキレイ類、シギ・チドリ類、ツグミ、ジョウビタキなどは来てくれるでしょうか。彼等を探しながら土手を歩きましょう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

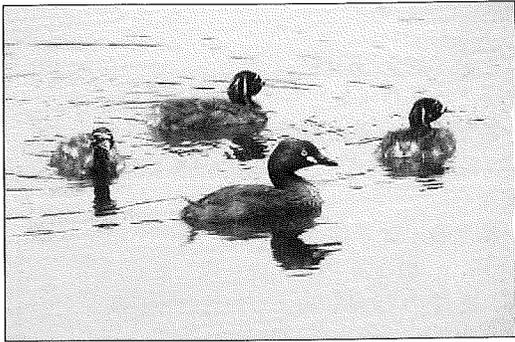
期日：11月9日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:49発に乗車。

担当：中里、大澤、森本、倉崎、高橋(ふ)、後藤、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鶴飼

見どころ：晩秋をむかえる大麻生。梢をひんやりとした空気が流れ、足元の枯れ葉の音が心地よい。うれしい鳥の季節の始まりです。冬鳥たちが勢揃いでお出掛けを待っています。



吉見町の八丁湖では、今年2組のカイツブリが雛を育てました(阿部義裕)。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：11月15日(土) 午後3時～4時ころ
会場：支部事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：11月16日(日)
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
後援：さいたま市立浦和博物館
担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、舟木
見どころ：秋が深くなり、カモなど冬鳥が勢揃い。見沼たんぼには市民が協力して作った散歩道があります。案内図を片手に鳥見をかねて歩きましょう。まず手始めに探鳥会へお出かけください。特に初心者の方、大歓迎です。

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：11月16日(日)
集合：午前8時40分、東武東上線武蔵嵐山駅西口。または午前9時10分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。
交通：東武東上線川越 7:43 発、または寄居 8:10 発(小川町で乗り換え)。
担当：後藤、喜多、大澤、青山、新井(巖)、中村(豊)、林、千島、鶴飼、栗原
見どころ：鳥見人にはわくわくする時季になり

ました。冬鳥も姿を見せ始めています。きっと最高のバードウォッチング日和になることでしょう。

栃木県・奥日光探鳥会(要予約)

期日：11月22日(土)
集合：午前7時、JR大宮駅西口ソニック大ホール前広場。
交通：往復とも貸し切りバスを利用。
帰着：当日午後7時ころを予定。
費用：6,000円の予定(バス代、高速料、保険料など)。万一過不足の場合は当日精算。
定員：30名(先着順、県支部会員優先)、最少催行人員は25名。
申し込み：往復はがきに住所、氏名、年齢(保険加入のため)、電話番号を明記して、玉井正晴()まで。

担当：玉井、入山、藤澤
見どころ：初冬の奥日光で埼玉では見られない鳥を探します。併せて今月の特集をご熟読ください。昨年はオオマシコが大人気でした。防寒具、雨具は必携です。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：11月22日(土)
集合：午前9時15分、アスレチック公園前駐車場。
交通：東武伊勢崎線春日部駅西口朝日バス③番から、国民年金春日部エミナス行き 8:41 発で「共栄大学・短大前」下車。西へ徒歩3分。
担当：石川、吉安、橋口、新井(良)、宮下、吉岡(明)、野村(弘)、野村(修)
見どころ：年により冬鳥や漂鳥の飛来に変化があり、昨年はエナガが山から当地まで下りていました。今年はどうな鳥が来ているのでしょうか。ツグミ、アカハラ、シメ、ヤマガラ、カケス、タヒバリなどとの再会が楽しみです。

宮城県・伊豆沼探鳥会(要予約)

期日：11月22日(土)～23日(日)

定員に達したので締め切りました。

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：11月23日(日)

集合：午前8時15分 JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時15分、見沼自然公園駐車場。

担当：工藤、兼元、浅見、松村、赤堀、金子、舟木、新井(勇)

見どころ：毎年この時期は、どんな冬鳥がやってきているかなとフィールドに出るのが楽しみです。自然公園の池ではカモたちが羽を休めています。うららかな小春日和(きっと)の見沼たんぼの探鳥会に参加してみませんか。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：11月23日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:44発、所沢8:39発に乗車(ダイヤが変更になっています)。

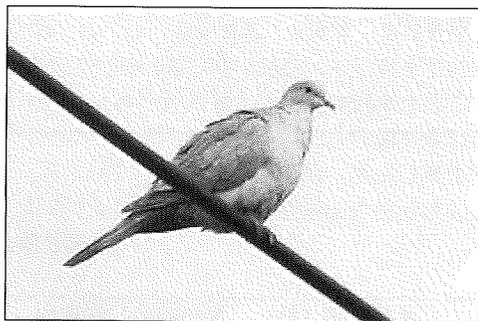
担当：長谷部、藤掛、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、石光、山田(義)、山口、星、水谷

見どころ：冬鳥を探して、入間川の河原と稲荷山公園を歩きます。水辺の鳥、山の鳥、何種の冬鳥に出会えるのでしょうか。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：11月23日(日)

集合：午前9時20分「つきみ荘」北側。「つきみ荘」内には駐車できません。



暑い季節のシラコバトは心なしか痩せて見えました(落合英二)。

交通：JR高崎線本庄駅北口から、国際十王バス9:10発、伊勢崎行きで「坂東橋南詰」下車。

担当：新井(巖)、倉崎、鶴飼、小池(一)、小池(順)、藤田(裕)、小淵、岡田

見どころ：近年カモたちの集まりが悪いけれど今シーズンはどうでしょうか。草原に遊ぶ小鳥たち、水辺の鳥たち、大空に舞う猛禽たちを探しながら、初冬の河原を歩きましょう。

注意：河原を歩きますので、足拵えと防寒はしっかりと。仮設のトイレはありますが、駅などで済ませておきましょう。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：11月24日(月・振休)

集合：午前8時40分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：玉井、吉安、田中、長嶋、長野、菱沼(一)、榎本(建)、青木

見どころ：11月の末ともなればアシ原、屋敷林ともに晩秋の装い、戻って来た冬鳥たちで賑やかになります。水辺にはカモ、アシ原にはホオジロ類。そして空にはオオタカが飛んでくれば最高ですね。

さいたま市・秋ヶ瀬自然観察会

期日：11月24日(月・振休)

集合：午前9時、秋ヶ瀬公園ピクニックの森駐車場。

交通：浦和駅西口から大久保浄水場行きバス8:20発、または東武東上線志木駅東口から、与野駅西口行きバス8:25発で、「下大久保」下車、徒歩約8分。

担当：小荷田、佐久間、杉原、藤田(敏)、舟木

見どころ：テーマは「ハンノキの自然史」。東アジアの暖温帯から冷温帯の山地、湿原、河川沿いの過湿地等に生育するハンノキの生態、進化、生長、植生などについて知り、ピクニックの森における1980年からのハンノキの変化を調べます。あれば植物図鑑をお持ちください。



行事報告

4月6日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：64名 天気：快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ オオタカ チョウゲンボウ キジ バン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 桜をはじめ花々が満開。木々も輝いていた。鳥たちも赤く色づいたベニマシコ、求愛求餌をしているカワラヒワなど……春っていいですね!! バスのダイヤ改正の関係ではご迷惑をおかけし、申し訳ありませんでした。(伊藤芳晴)

4月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加：26名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ カルガモ トビ オオタカ ハヤブサ コジュケイ キジ バン イカルチドリ セグロカモメ キジバト ヒメアマツバメ アマツバメ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ヒレンジャク ツグミ ウグイス セッカ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (42種) (番外：ガビチョウ、ドバト) 早朝から雨で、今日は中止にするしかしようがないと思って出かけた。ところが熊谷にくと雨は降っていない。よしやるぞと気合が入る。葉桜の土手に出ると早速鉄塔の上でハヤブサが出迎えてくれた。眼下ではモズの求愛給餌が観察できた。初めて見るというある女性はしきりに興奮していた。土手を降りると「レンジャクだ」の叫び声上がる。列が崩れて「どこだ、どこだ」と大騒ぎになった。尾羽の赤いヒレンジャクだ。大麻生では久しぶりだ。全員

がじっくり見ることができた。少人数での和気あいあい楽しい探鳥会だった。(中里裕一)

4月13日(日) 所沢市 狭山湖

参加：10名 天気：曇時々雨

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ ヒドリガモ トビ キジバト アオゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシブトガラス (30種) 小雨がパラつくあいにくの天気だったが、スタート直後にアオジの綺麗な囀り。この場所では珍しい囀りに、姿を追いつつながら暫し聴き入った。コース全般に鳥が少ないのは淋しかったが、タヒバリ夏羽の胸のバフ色をはっきり確認出来、この時季ならではの楽しみもあった。僅か1羽残っていたカンムリカイツブリは……まだ冬羽だった。(石光 章)

4月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：8名

新井浩、池田泰右、海老原教子、大坂幸男、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、松村慎夫

4月20日(日) さいたま市 三室地区

参加：77名 天気：晴

カワウ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ハシビロガモ キンクロハジロ オオタカ コジュケイ キジ コチドリ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ アカハラ セッカ シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 新学期が始まる季節はなにごとにも事初めなのか、参加者が多かった。芝川にはカモ類がまだ残っていて、キンクロハジロなどを楽しんだ。緑の田んぼを歩いて行くと、あちらこちらから元気なキジの声が聞こえていた。(福井恒人)

4月27日(日) 東松山市 物見山

参加：34名 天気：曇後晴

カワウ コジュケイ キジ キジバト コゲラ

ツバメ ハクセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ ツグミ ウグイス センダイムシクイ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) (番外:ガビチョウ、ドバト) 連休真っ只中。鳥の種類、個体数が少なく、ウグイスのみが元気付けてくれた。緑の中、チゴユリ、ウワミズザクラ、オニグルミ、ズミ、ヤマツツジ等の花を見ながらの森林浴ハイキングとなった。途中で、前日の雨のためにコース変更。休憩予定の場所をハイキンググループが使用していたので通過。物見山山頂は、坂戸市ライオンズクラブのイベントで占領されていて、鳥合わせとお弁当の場所も変更したが、参加者の皆様の協力で無事終了。

(藤掛保司)

4月27日(日) さいたま市 秋ヶ瀬公園

参加: 51名 天気: 曇

カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ キジ コチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ツグミ ウグイス オオヨシキリ センダイムシクイ セッカ キビタキ オオルリ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ クロジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) (番外:ドバト) 6時過ぎまで雨。集合時刻になってもどんより曇り空。鴨川排水機場でまずカワセミ、イソシギ、サギ類とカモたちを見て公園に入り、北側に回るとオオルリが出た。しばらく楽しむ。時々センダイムシクイの声。竹やぶの通りでキビタキが出たとの報にそちらに行く。雨のち曇の天候に感謝の日だった。(倉林宗太郎)

4月29日(火、休) 春日部市 内牧公園

参加者: 44名 天気: 晴

カワウ コサギ カルガモ キジ ムナグロ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (20種) GW最中の休日人で多く、鳥影が少ないため、一部ルートを変更した。期待した夏鳥は見えず、残念。しかし、梅林下で佇むキジの雄と代掻き前の田んぼでムナ

グロを確認できたのはよかった。(石川敏男)

4月29日(火、休) 大久保農耕地シギ・チドリ類調査

ボランティア: 17名 天気: 晴

浅見徹、新井巖、石井智、海老原教子、海老原美夫、大勝学、大森茂男、久保田忠資、佐久間博文、杉原みつ江、鈴木敬、進士悦行、時吉由子、新部泰治、馬場友里恵、山本功、米岡茂代

5月3日(土、休) さいたま市 秋ヶ瀬自然観察会

参加: 8名 天気: 雨後晴

テーマは「外来植物の自然史-秋ヶ瀬公園ピクニックの森における外来植物」。縄文、弥生の作物伝来時、戦国、江戸後期、戦後と続く歴史の変遷、侵入方法、侵入ルート、特定外来植物、さいたま市の外来植物など、外来植物の各論を学ぶ。ピクニックの森で、①在来種と外来種の生育地の違い、②木本外来植物分布拡大の理由、について観察。①はオオブタクサの芽から、人が踏み荒らす場所から離れるにつれ在来種が多くなること、②は公園樹として植えた樹が実生で増加(例)トウカエデ、……が判明した。アメリカフウロ、アカバナユウゲショウ、ヒルザキツキミソウ、ハルジオン、シロツメクサ、セイヨウタンポポが道端、チョウジソウ、ノウルシ、ケキツネノボタン、ツボスミレ、ムラサキケマンがハンノキ林床に咲いていた。(小荷田行男)

5月5日(月、休) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 74名 天気: 曇

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ハシブロガモ チョウゲンボウ バン メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ キアシシギ オオソリハシシギ チュウシャクシギ セイタカシギ ユリカモメ コアジサシ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 集合時刻にユリカモメの渡りの群れが上空を通過。渡りの季節を肌で感じた。干潟では少数ながらシギ・チドリの主な種類が見られた。終了後には数がうんと増えた。干潟のカニや貝類の質問が出たのはうれしかった。(杉本秀樹)



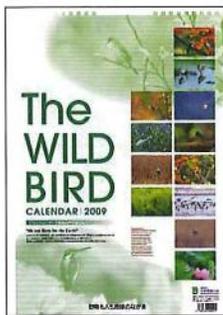
●支部の名称変更案に対する意見提出

前月号本欄でご報告した公益法人制度改革による支部の名称変更の件に関する8月19日づけ新制度検討委員会臨時答申について、9月21日(日)の支部役員会議で議論しました。

骨子のうち「日本野鳥の会〇〇支部の名称から支部の二文字を削除し、日本野鳥の会〇〇に統一する」案については、それ以外の様々な名称も検討されましたがそれぞれ一長一短、結局答申案を超える良案が見つかりません。ただ、答申案のとおりでは当支部は「日本野鳥の会埼玉県」となりますが、「日本野鳥の会埼玉」という名称を推す役員もいて、結論は出ませんでした。

- それにより、
 - ①臨時答申の名称変更案にやむなく同意する。ただし「県」をつけない選択もあり得るようにしてほしい。
 - ②名称変更の手続きを2010年3月までに終わらせることは可能である。
- との支部意見を、9月22日(月)メールで発信しました。

●『The WILD BIRD CALENDER 2009』発売



定価税込み 1,470円、会員価格税込み 1,250円。探鳥会などで販売します。

別売りのSNGサウンドリーダーで野鳥の声を聞くことができます。カレンダーとサウンドリーダーのセッ

ト販売(9,283円)、カレンダー・サウンドリーダー・声の聞こえる野鳥図鑑のセット販売(10,963円)もありますが、支部の取り扱いにはカレンダー単体販売のみです。セット販売ご希望の方は、財団本部のホームページからお申し込みください。

●年末講演会の予告

12月23日(火・休)の年末講演会、講師は数々の野鳥図鑑の執筆でよく知られているイラストレーター谷口高司さんを予定しています。詳しくは12月号をお楽しみに。

●会員数は

10月1日現在 2,222人です。

活動と予定

- 9月13日(土) 10月号校正(海老原美夫・大坂幸男・志村佐治・藤掛保司)。
- 9月21日(日) 役員会(司会：田邊八州雄、各部の報告・名称変更案・関東ブロック協議会・全国ブロック支部連絡会・その他)。
- 9月24日(水) 「支部報だけの会員」に向けて10月号を発送(倉林宗太郎)。

●事務局の予定

- 11月1日(土) 編集部・普及部・研究部会。
- 11月8日(土) 12月号校正(午後4時から)。
- 11月15日(土) 袋づめの会(午後3時から)。
- 11月16日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

虫の撮影にはまっていることは、以前編集後記で書きましたが、今年の夏にデジタル一眼レフを買って、更に深みにはまってきました。いつも同じフィールドですが、行く度に新しい発見があり、興味が尽きないですね。これからの季節は虫が少なくなるので、また鳥でも見ようかな。(藤原)

しらこぼと 2008年11月号(第295号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://35.tok2.com/wbsjsaitama/>
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社